

10月12日

50年の歩みを共に 第46回金婚ご夫妻慶祝の集い

「金婚ご夫妻慶祝の集い」が振興センターで開かれ、昭和49年に結婚した3組の夫妻が出席しました。

式では、来賓の棚野孝夫町長が「お互い助け合い、今後も元気で過ごしてください」とあいさつ。その後、3組の夫妻は歓談を楽しみ、共に歩んだ50年を振り返りました。参加した夫妻は、大島修造・榮子さん、菅原友治・政子さん、澤原孝行・美枝さんです。



左から澤原夫妻、菅原夫妻、大島夫妻



加藤さん(中央)の指導で餃子の皮に具を包む参加者

10月10日

北海道米消費拡大事業 北海道米料理講習会

白糠消費者協会（長尾一恵会長）主催の道産米や白糠食材を使った料理講習会が社会福祉センターで開催され、同協会の会員5人が参加しました。

講習会では、漁協女性部の加藤美紀部長が講師を務め、柳ダコのタコ飯や鮭餃子、鮭のあら汁の3品を作りました。長尾会長は「鮭餃子は初めて作りましたが、とてもおいしかったです」と笑顔で話していました。

10月5日

自然の魅力を再発見 自然観察会「秋の森の生態系」

自然観察会「秋の森の生態系」が、和天別の京都大学北海道研究林白糠区で行われ、町内外から参加した13人が森の生物や植物と触れ合いました。

散歩では、同研究林の職員が講師を務め、キノコの種類の見分け方や毒の有無、動物の生態などを説明。参加者は、偶然出会ったシマリスや普段見かけない植物の写真を撮るなどして、自然を満喫していました。



職員の説明を受けながら散歩をする参加者



保健師が「男性の自殺者は増加傾向にある」と説明

10月4日

傾聴力とサポート力を身につける ゲートキーパー研修会

「ゲートキーパー研修会」が保健センターで行われ、参加者15人がゲートキーパーの役割などを学びました。

講話では、町保健師がこころの病気などについて説明。その後、参加者同士で悩みがある人への対応を演じる疑似体験を行いました。参加者は「温かみのある対応をしないと悩みを話せない」「相手の感情を受け止めて否定しないことが大事」などと話していました。

10月12日

音楽の熱気に包まれた夜 ウィー・アー・ザ・シラヌカバンド13

音楽ライブイベント「ウィー・アー・ザ・シラヌカバンド13」が社会福祉センターで開催されました。

13回目の今回は、ベテランバンドから初出演の「Ampicillin（アンピシリン）」など、過去最多の5組のバンドが出演し、来場した約180人を熱狂の渦に巻き込みました。来場者は飲食しながら、5組のバンドの躍動感あるステージを楽しみました。



会場を沸かせた「Ampicillin」のメンバーたち



白糠吟詠会の3人が伸びやかな歌声で詩吟を披露

10月12日

日頃の練習の成果を発表 公民館月例活動発表会

町文化協会主催の「月例活動発表会」が公民館で開かれ、白糠吟詠会と西庶路音頭振興会が日頃の練習の成果を披露しました。

発表会では、白糠吟詠会が「母」「阿寒湖を詠ず」「老の身は」などを吟じました。西庶路音頭振興会は「きよしのズンドコ節」や「長生き音頭」、来場者も交えた「しあわせ音頭」などで会場を盛り上げました。

10月8日

交通事故ゼロを目指して ライオンズクラブ交通安全街頭啓発

白糠ライオンズクラブ（高橋清美会長）は、10月8日のライオンズデーに合わせて、道の駅しらぬか恋問の駐車場で交通安全街頭啓発を行いました。

この日は、同クラブの会員4人が、運転手に飲酒運転の根絶などが掲載されたチラシとポケットティッシュ、鍛高ラムネが入ったセットを100個配りながら、「安全運転をお願いします」と呼び掛けました。



運転手に交通安全を呼び掛ける会員



採れたての新鮮な野菜を買い求める来場者

10月5日

秋の味覚が集結 しらぬか秋の収穫祭

白糠の秋の味覚が集まる「しらぬか秋の収穫祭」がしらぬか物産センター恋問館で開かれました。

会場では、ゆで毛ガニやタマネギ、ジャガイモといった新鮮な野菜が格安で販売され、多くの来場者でにぎわいました。札幌市の太田迅さん（24歳）は、購入した毛ガニを食して「身が引き締まって甘くておいしい。良い思い出になりました」と笑顔を見せました。